

# 学校責任なせ触れず

## 浜名湖ボート転覆事故

# 遺族、落胆と無念

# 「原因究明と言えない」

愛知県豊橋市草南中学校一年の西野花菜さん(15)が犠牲になった浜名湖ボート転覆事故で、運輸安全委員会が二十七日公表した事故調査報告書は、悪天候の中でボート活動を自粛しなかった判断を事故原因の一つに挙げたものの、学校側の責任には触れていない。責任を追及してきた遺族は落胆と悔しさをにじませた。



西野花菜さん

「花菜ちゃん、ごめん。まだ事故の原因を究明できなかったって言えな

いよ」。級友から届いた手紙や娘が愛用していたバイオリンに囲まれた居間の祭壇。ほほ笑む娘の遺影を、父親の友章さん(53)は無念の思いで見つめた。

運輸安全委の調査官がいないなど、当時の状況

だが報告書では、花菜さんら生徒を引率

ら三人が二十四日、豊橋市の西野さん方を訪ね、百八びに及ぶ事故調査報告書を二時間半かけて説明した。ボートは詳細に分かった。「娘はきつと苦しんだらろう」と思い、友章さんと妻光美さんの胸は張り裂けそうになった。

「報告書は、校長ら学校側が天候状況からボート活動を予定通り実施することを不安視していたと認められた上、施設側から大雨、雷、強風、波浪および洪水の各気象注意報が発表されていると知らされ、かつ意見を

し、野外教育を行った中学校や豊橋市教育委員会の責任は全く触れられていなかった。友章さんは「ボートの訓練が施設のずさんな運営で行われていたのが分かったことは一つの成果。でも、事故の再発防止を目指すというのが市教委の見話した。

徒を出航させた学校の判断はどうなるのか」と話す。

「警察の捜査で野外教育として訓練を行った学校の責任も追及してほしい。二度と同じ事故を起こしてはいけなから」。そう言葉に力を込めた。

豊橋市教委学校教育課の宮崎正道課長は「報告書が届いておらず詳細は分からないが、学校はあくまで三ヶ日青年の家の説明を受けた訓練を行ったと

「ただ…」と事故調査を担当した調査官の一人が続けた。「施設の職員も経験不足だったというところで、学校側は知らなかったのではないか」。安全対策の不備や指定管理者制度導入時の引き継ぎ不足は、学校側にとって誤算だったとの見方を示した。



西野花菜さん宛てに届いた級友の手紙と、愛用していたバイオリンを見つめ、事故原因の究明を願う友友章さん(愛知県豊橋市)

## 調査官「教諭が反論、困難」

は「学校側は事前の打ち合わせで施設側から「雷でなければ雨でもやる」と説明された、前日と当日にも確認していた。学校の教諭からすれば、施設の職員は「大丈夫」と言われれば、素人である教諭らがそれ以上反論するのは難しい」と説明する。

求められていれば活動中止を申し入れていた可能性がある」と指摘した。

### 可否判断は施設が主導

ボート活動の可否判断をめぐる学校側の立場が、あくまで従属的すぎないとの前提が読み取れる。学校の責任を問わない理由を、運輸安全委の調査官



### 浜名湖転覆調査

# 「ずさんな危機管理明確に」

## 父、学校側責任に不満

浜名湖のボート転覆事故から1年半、運輸安全委員会は野外活動を受け入れた「静岡県立三ヶ日青年の家」のマニユアルの不備を指摘した。調査結果に遺族は一定の評価をする一方、学校の責任を追及していないことに危機感を抱く。

▼1面参照

は転覆ではなく、娘の命がなくなったことと指摘。調査結果が自然体験教室を引率した学校と豊橋市教育

委員会に言及していないことに「学校や市教委がいろいろに解釈して、責任はないと勘違いするのでは」と不安を感じている。「これからも子どもが命を落とさなくなるにはどうすればいいか。その仕組みづくりを議論し続けてほしい」と訴

えた。調査結果を受け、豊橋市教育委員会の宮崎正道・学校教育課長は「運輸安全委員会が示した調査結果をしっかり分析した上で、市教委で作業を進めている事故の再発防止のマニユアルに反映させるものがあれば反映させたい」。静岡県安部徹教育長は「県教育委員会としては、今回公表された事故調査報告書の内容を真摯に受け止め、勧告された事項を現在作成中の安全対策マニユアルに反映させるなど、安全の確保に万全を期したい」とコメントを出した。

亡くなった西野花菜さんの父・友章さん(52)は朝日新聞の取材に「改めて施設と運営会社の危機管理のずさんさが明確になった。子どもの命を軽く考えていたのではないか。情けない状態で運営されていたと感じ」と肩を落とした。

是正を求める勧告を出し

た点は「よかった」と評価した。ただ、調査が事故の物理的原因にとどまったことには危機感を覚えている。運輸安全委の担当者は西野さんに「調査は原因の究明を目的にしたもので、責任追及のためではない」と説明したという。

西野さんは「本当の被害



発表会でバイオリンを演奏する11歳の頃の西野花菜さん(左)西野友章、光美さん夫妻提供

## 事故起こさぬ体制つくる

転覆した手こぎボートを引航していた静岡県立三ヶ日青年の家(浜松市北区)の檀野清司所長は27日、調査結果の公表を受けて、朝日新聞の取材に「調査結果を真摯に受け止め、具体的な対策を検証したい。県教委と一緒に、二度と事故を起こさぬ体制をつくりたい」と話した。

### 三ヶ日青年の家所長

たボートを引っ張っていたが、しばらくして後ろのボートが転覆した。檀野所長は、ロープで引航する前、ボートのかじをコントロールするよう教諭に求めなかったことや、ボートにたまった水をかき出すように伝えなかったことを告白。「冷静さを失い、(注意が)飛んでしまった」と話した。

事故から1年となった昨年6月にも本紙の取材に応じ、「引航の経験が足りなかったことが事故の大きな要因」と、自責の念を漏らしていた。事故当時、所長は自らが操縦するモーターボートで、生徒ら計20人が乗っ

また、一番近い湖畔は500メートル先だったにもかかわらず、2才離れた青年の家に向かったことについて、「結果論になるが、近い岸へ着ける選択もあった」と悔やんでいた。



# 浜名湖・ボート転覆

## 学校の責任に触れず

### 安全委 施設に従属的

愛知県豊橋市豊南中学校の西野花菜さん(当時12歳)が犠牲になった浜名湖ボート転覆事故で、運輸安全委が二十七日公表した事故調査報告書は、悪天候の中でボート活動を自覚しなかった判断を事故原因の一つに挙げたものの、学校側の責任には触れていない。(●面参照)



西野花菜さん

報告書は、校長が学校側が天候状況からボート活動を予定通り実施することをおこなったことと不安視し

ていたと認めただけで、指摘する。「施設側から大雨、雷、強風、波浪および洪水の各気象場場について、あくまで

ボート活動の可否判断をめぐり学校側の立場について、あくまで

従属的にすぎないとの前提が読み取れる。運輸安全委は「学校

説明され、前日と当日にも確認していた。学校

## 「原因究明と言えない」

豊橋の遺族

「花菜ちゃん、ごめボートの内側に娘が閉じ止を自指すなら、悪天候ん。また事故の原因を究明でめられていたのを見た明できたって言えない生徒がいた。」

「当時は状況が詳細に分紙や娘が愛用していたパかった。「娘はきつと苦イオリンに囲まれた居間しんだんたろう」と思育として訓練を行った学校の祭壇。ほほ笑む娘の遺い、友章さんと妻光菜さ校の責任も追及してほし影を、父親の友章さんの胸は張り裂けそうに。二度と同じ事故を起こしてはいけなから。」

だが報告書では、花菜そつ言葉に力を込めた。運輸安全委の調査官らさんら生徒を引率し、野豊橋市教委学校教育課三人が二十四日、豊橋市外教育を行った中学校やの宮崎正道課長は「報告の西野さん方を訪ね、百豊橋市教育委員会の責任書が届いておらず詳細は八がに及ぶ事故調査報告は全く触れられていなか分らないが、学校はあくまで三ヶ日青年の家の書を二時間半かけて説明った。

友章さんは「ボートの説明を受けて訓練を行った。転覆したボートを曳航した三ヶ日青年の家訓練が施設のすさんだというのが市教委の見所長に専門知識がなく、嘗て行われていたのが分解。ただ今後、事故を受悪天候時のマニュアルはかったことは一つの成けた再発防止のマニュアル未整備だった。転覆した果、でも、事故の再発防止には必要と話した。



西野花菜さんが愛用したバイオリンと花菜さん宛てに届いた被害者の手紙を見つめ、事故原因の究明を願う父友章さん(愛知県豊橋市)